

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

| | |
|------|-------------------------|
| 学校名 | 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人静岡理科大学 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|------|------------------------------|-----------|-----------------------------|-------------------|------|
| 専門課程 | 国際エアライン科 エアラインコース | 夜・通信 | 1410 時間 | 160 時間 | |
| | 国際エアライン科 グランドスタッフコース | 夜・通信 | 1440 時間 | 160 時間 | |
| 専門課程 | 観光・ホテルブライダル科 ホテル・ブライダルコース | 夜・通信 | 1590 時間 | 160 時間 | |
| | 観光・ホテルブライダル科 観光ビジネスコース | 夜・通信 | 1530 時間 | 160 時間 | |
| 専門課程 | 国際コミュニケーション科 ランゲージコース | 夜・通信 | 1410 時間 | 160 時間 | |
| | 国際コミュニケーション科 コンシェルジュコース | 夜・通信 | 1440 時間 | 160 時間 | |
| 専門課程 | 国際交流科 | 夜・通信 | 2970 時間 | 240 時間 | |
| (備考) | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 ホームページ https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/ |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学科

| |
|-----------|
| 学科名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|-------------------------|
| 学校名 | 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人静岡理工科大学 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|--|
| 学校法人静岡理工科大学のホームページ (https://sist-net.ac.jp/information/) にて「役員名簿」を公開 |
|--|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|----------|---------------------|-------------------------|---------------------------|
| 非常勤 | 学校法人静岡理工科大学 元理事長 | 令和5年10月1日～ 令和7年9月30日 | 学校法人運営についての意見 |
| 非常勤 | 物流等関連企業 代表取締役会長 | 令和5年10月1日～ 令和7年9月30日 | 学校法人運営についての意見 財務担当 |
| 非常勤 | 食品等関連企業 代表取締役会長 | 令和5年10月1日～ 令和7年9月30日 | 学校法人運営についての意見 |
| 非常勤 | 物流等関連企業 元相談役 | 令和5年10月1日～ 令和7年9月30日 | 学校法人運営についての意見 |
| 非常勤 | 大学 名誉教授 | 令和5年10月1日～ 令和7年9月30日 | 学校法人運営についての意見 学事顧問 |
| 非常勤 | 金融機関 顧問 | 令和5年10月1日～ 令和7年9月30日 | 学校法人運営についての意見 |
| 非常勤 | 冷蔵倉庫業 取締役会長 | 令和5年10月1日～ 令和7年9月30日 | 学校法人運営についての意見 |
| 非常勤 | システム関連企業 代表取締役社長 | 令和5年10月1日～ 令和7年9月30日 | 学校法人運営についての意見 情報 IR 担当 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|------------------------------|
| 学校名 | 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校（全学科） |
| 設置者名 | 学校法人静岡理工科大学 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|--|--|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書（シラバス）の作成および公表について</p> <p>1 1月～ 次年度の授業計画を策定</p> <p>2月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼</p> <p>※講師会に於いて講師、教員への説明</p> <p>※授業計画書（シラバス）のテンプレート配布</p> <p>※授業計画書（シラバス）のガイドライン配布</p> <p>3月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認</p> <p>4月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明</p> <p>授業計画書（シラバス）の公表</p> | |
| <p>授業計画書の公表方法</p> | <p>静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 ホームページ</p> <p>https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/</p> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業での出欠管理を徹底し、授業内で小テストを行うなど、確認テストによる理解度のチェックを行う。さらに、前期または後期、あるいはその両方において、授業計画書（シラバス）に定めた期末試験を実施し評価を行う。</p> | |

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価は、科目ごとに素点（0点～100点）、4段階評価（優・良・可・不可）で表しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価（優・良・可・不可）で表示している。

| 評語 | 素点 | 意味 | ポイント |
|----|----------|-----------------------------|------|
| 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 |
| 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 |
| 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 |
| 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 |

成績評価指数＝

$$\{(4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数})\} \div \text{科目数}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法

静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 ホームページ
<https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能、プロ意識を持った人材の育成を教育目標としており、卒業する学生は学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力を有している。

- ①専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得
- ②グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力
- ③全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）

本校のディプロマポリシーに基づき、各コースのディプロマポリシーを設定している。

卒業の認定に関する方針の公表方法

静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 ホームページ
<https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|-------------------------|
| 学校名 | 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人静岡理工科大学 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | 静岡理工科大学グループ ホームページ https://sist-net.ac.jp/information/ |
| 収支計算書又は損益計算書 | 同上 |
| 財産目録 | 同上 |
| 事業報告書 | 同上 |
| 監事による監査報告（書） | 同上 |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|----------------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 文化・教養 | | 専門課程 | 国際エアライン科 エアラインコース | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1860 単位時間 | 750 単位時間 | 330 単位時間 | 120 単位時間 | 0 単位時間 | 660 単位時間 |
| | | | 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 60人 | | 27人 | 0人 | 4人 | 70人 | 74人 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 <p>授業計画書（シラバス）の作成および公表について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1月～ 次年度の授業計画を策定 2月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 <ul style="list-style-type: none"> ※講師会に於いて講師、教員への説明 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート配布 ※授業計画書（シラバス）のガイドライン配布 3月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 4月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 <p>授業計画書（シラバス）の公表</p> |
| 成績評価の基準・方法 |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 <p>【成績評価について】</p> <p>成績評価は、科目ごとに素点（0点～100点）、4段階評価（優・良・可・不可）で</p> |

表しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価（優・良・可・不可）で表示している。

| 評語 | 素点 | 意味 | ポイント |
|----|----------|-----------------------------|------|
| 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 |
| 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 |
| 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 |
| 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 |

成績評価指数＝

$$\{ (4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \} \div \text{科目数}$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

- ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。
- ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。
- ・学納金の未納が無いこと。

【卒業認定に関する方針】

本校は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能、プロ意識を持った人材の育成を教育目標としており、卒業する学生は学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力を有している。

- ①専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得
- ②グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力
- ③全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）

本校のディプロマポリシーに基づき、各コースのディプロマポリシーを設定している。

学修支援等

(概要)

- ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。
- ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|---------------|------------|-------------------|--------------|
| 12人 (100%) | 0人 (0%) | 11人 (91.7%) | 1人 (8.3%) |

(主な就職、業界等)

- ・航空業界（客室乗務員、地上職）

(就職指導内容)

- ・個別面談、書類添削、面接指導の実施
- ・企業による業界セミナーの実施

(主な学修成果（資格・検定等）)

- ・全国手話検定試験5級、TOEIC600点以上、サービス接遇検定試験1級

(備考) (任意記載事項)

| | | |
|--------------------|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 28人 | 1人 | 3.6% |
| (中途退学の主な理由) | | |
| ・体調不良 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) | | |
| ・担任制による状況把握と早期個人面談 | | |
| ・保護者との連携 | | |

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|-------------------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 文化・教養 | | 専門課程 | 国際エアライン科 グラントスタッフコース | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1860 単位時間 | 720 単位時間 | 360 単位時間 | 180 単位時間 | 0 単位時間 | 600 単位時間 |
| | | | 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 60人 | | 27人 | 1人 | 4人 | 70人 | 74人 | |

| |
|---|
| カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) |
| (概要) |
| ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 授業計画書 (シラバス) の作成および公表について |
| 1 1月～ 次年度の授業計画を策定 |
| 2月～ 教員への授業計画書 (シラバス) 作成依頼 ※講師会に於いて講師、教員への説明 ※授業計画書 (シラバス) のテンプレート配布 ※授業計画書 (シラバス) のガイドライン配布 |
| 3月～ 授業計画書 (シラバス) の回収と確認 |
| 4月～ 授業計画書 (シラバス) の配布と説明 授業計画書 (シラバス) の公表 |
| 成績評価の基準・方法 |
| (概要) |
| ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 |
| 【成績評価について】 |
| 成績評価は、科目ごとに素点 (0点～100点)、4段階評価 (優・良・可・不可) で表しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価 (優・良・可・不可) で表示している。 |

| 評語 | 素点 | 意味 | ポイント |
|----|----------|-----------------------------|------|
| 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 |
| 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 |
| 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 |
| 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 |

成績評価指数＝

$$\{ (4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \} \div \text{科目数}$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

- ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。
- ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。
- ・学納金の未納が無いこと。

【卒業認定に関する方針】

本校は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能、プロ意識を持った人材の育成を教育目標としており、卒業する学生は学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力を有している。

- ①専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得
- ②グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力
- ③全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）

本校のディプロマポリシーに基づき、各コースのディプロマポリシーを設定している。

学修支援等

(概要)

- ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。
- ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|---------------|------------|-------------------|------------|
| 16人 (100%) | 0人 (0%) | 16人 (100%) | 0人 (0%) |

(主な就職、業界等)

- ・航空業界（グラウンドスタッフ、グラウンドハンドリング）

(就職指導内容)

- ・個別面談、書類添削、面接指導の実施
- ・企業による業界セミナーの実施

(主な学修成果（資格・検定等）)

- ・全国手話検定試験4級、TOEIC550点以上、アマデウスシステム検定 Reservation

(備考) (任意記載事項)

| | | |
|--------------------|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 31人 | 1人 | 3.2% |
| (中途退学の主な理由) | | |
| ・進路変更 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) | | |
| ・担任制による状況把握と早期個人面談 | | |
| ・保護者との連携 | | |

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|----------------------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 文化・教養 | | 専門課程 | 観光・ホテル・ライダール科 観光ビジネスコース | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1860 単位時間 | 840 単位時間 | 300 単位時間 | 240 単位時間 | 0 単位時間 | 480 単位時間 |
| | | | 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 60人 | | 12人 | 0人 | 5人 | 69人 | 74人 | |

| | | | |
|---|----------|-----------------------------|------|
| カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) | | | |
| (概要) | | | |
| ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 | | | |
| 授業計画書 (シラバス) の作成および公表について | | | |
| 1 1月～ 次年度の授業計画を策定 | | | |
| 2月～ 教員への授業計画書 (シラバス) 作成依頼 | | | |
| ※講師会に於いて講師、教員への説明 | | | |
| ※授業計画書 (シラバス) のテンプレート配布 | | | |
| ※授業計画書 (シラバス) のガイドライン配布 | | | |
| 3月～ 授業計画書 (シラバス) の回収と確認 | | | |
| 4月～ 授業計画書 (シラバス) の配布と説明 | | | |
| 授業計画書 (シラバス) の公表 | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | |
| (概要) | | | |
| ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 | | | |
| 【成績評価について】 | | | |
| 成績評価は、科目ごとに素点 (0点～100点)、4段階評価 (優・良・可・不可) で表しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価 (優・良・可・不可) で表示している。 | | | |
| 評語 | 素点 | 意味 | ポイント |
| 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 |
| 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 |
| 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 |
| 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 |

成績評価指数＝

$$\{ (4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \} \div \text{科目数}$$

卒業・進級の認定基準

(概要)
 ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。
 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。
 ・学納金の未納が無いこと。
【卒業認定に関する方針】
 本校は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能、プロ意識を持った人材の育成を教育目標としており、卒業する学生は学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力を有している。

①専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得
 ②グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力
 ③全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）

本校のディプロマポリシーに基づき、各コースのディプロマポリシーを設定している。

学修支援等

(概要)
 ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。
 ・個別指導の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|--|------------|-------------------|------------|
| 6人 (100%) | 0人 (0%) | 6人 (100%) | 0人 (0%) |
| (主な就職、業界等) ・旅行業界、鉄道業界 | | | |
| (就職指導内容) ・個別面談、書類添削、面接指導の実施 ・企業による業界セミナーの実施 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) ・総合旅行業務取扱管理者、国内旅行業務取扱管理者、国内旅程管理主任者 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

中途退学の現状

| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
|----------|----------------|-----|
| 14人 | 0人 | 0% |

(中途退学の主な理由)

| |
|--|
| (中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制による状況把握と早期個人面談 ・保護者との連携 |
|--|

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|-------------------------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 文化・教養 | | 専門課程 | 観光・ホテル・ブライダル科 ホテル・ブライダルコース | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1860 単位時間 | 630 単位時間 | 360 単位時間 | 120 単位時間 | 0 単位時間 | 750 単位時間 |
| | | | 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 60人 | | 89人 | 0人 | 5人 | 69人 | 74人 | |

| カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------|-----------------------------|------|------|---|----------|----------------|---|---|---------|-----------------------------|---|---|---------|------------------|---|----|--------|--------------|---|
| (概要) ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 授業計画書 (シラバス) の作成および公表について 1 1月～ 次年度の授業計画を策定 2月～ 教員への授業計画書 (シラバス) 作成依頼 ※講師会に於いて講師、教員への説明 ※授業計画書 (シラバス) のテンプレート配布 ※授業計画書 (シラバス) のガイドライン配布 3月～ 授業計画書 (シラバス) の回収と確認 4月～ 授業計画書 (シラバス) の配布と説明 授業計画書 (シラバス) の公表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (概要) ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 【成績評価について】 成績評価は、科目ごとに素点 (0点～100点)、4段階評価 (優・良・可・不可) で表しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価 (優・良・可・不可) で表示している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80点～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70点～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60点～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0点～59点</td> <td>到達目標に達していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> | 評語 | 素点 | 意味 | ポイント | 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 | 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 | 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 | 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 |
| 評語 | 素点 | 意味 | ポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価指数＝ $\{ (4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \} \div \text{科目数}$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|---|
| 卒業・進級の認定基準 |
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 <p>【卒業認定に関する方針】</p> <p>本校は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能、プロ意識を持った人材の育成を教育目標としており、卒業する学生は学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力を有している。</p> <p>①専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得 ②グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力 ③全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）</p> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各コースのディプロマポリシーを設定している。</p> |
| 学修支援等 |
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。 |

| | | | |
|--|------------|-------------------|------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 36人 (100%) | 0人 (0%) | 36人 (100%) | 0人 (0%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| ・ホテル業界、ブライダル業界 | | | |
| (就職指導内容) | | | |
| ・個別面談、書類添削、面接指導の実施 ・企業による業界セミナーの実施 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) | | | |
| ・ホテルビジネス実務検定試験（H検）ベーシックレベル2級、 レストランサービス技能検定3級、ブライダルコーディネーター技能検定 | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| | | |
|--------------------------------|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 95人 | 5人 | 5.3% |
| (中途退学の主な理由) | | |
| ・進路変更 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) | | |
| ・担任制による状況把握と早期個人面談 ・保護者との連携 | | |

| | | | | | | | |
|----------|----|---------------------------|--------------------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
| 文化・教養 | | 専門課程 | 国際コミュニケーション科 ランゲージコース | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1860 単位時間 | 510 単位時間 | 570 単位時間 | 180 単位時間 | 0 単位時間 | 600 単位時間 |
| | | | 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 60人 | | 23人 | 0人 | 4人 | 70人 | 74人 | |

| | | | |
|---|----------|---------------------------------|------|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） | | | |
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 授業計画書（シラバス）の作成および公表について <ol style="list-style-type: none"> 1月～ 次年度の授業計画を策定 2月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 ※講師会に於いて講師、教員への説明 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート配布 ※授業計画書（シラバス）のガイドライン配布 3月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 4月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 授業計画書（シラバス）の公表 | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | |
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 <p>【成績評価について】</p> <p>成績評価は、科目ごとに素点（0点～100点）、4段階評価（優・良・可・不可）で表しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価（優・良・可・不可）で表示している。</p> | | | |
| 評語 | 素点 | 意味 | ポイント |
| 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 |
| 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、 到達目標を達成している。 | 2 |
| 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 |
| 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 |
| <p>成績評価指数＝</p> $\{ (4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \} \div \text{科目数}$ | | | |
| 卒業・進級の認定基準 | | | |
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 学納金の未納が無いこと。 <p>【卒業認定に関する方針】</p> <p>本校は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・</p> | | | |

| |
|---|
| <p>国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能、プロ意識を持った人材の育成を教育目標としており、卒業する学生は学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力を有している。</p> <p>①専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得 ②グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力 ③全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）</p> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各コースのディプロマポリシーを設定している。</p> |
| 学修支援等 |
| <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。 |

| | | | |
|---|------------|-------------------|---------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 26人 (100%) | 0人 (0%) | 21人 (80.8%) | 5人 (19.2%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| ・航空業界、ホテル業界、物流業界 | | | |
| (就職指導内容) | | | |
| ・個別面談、書類添削、面接指導の実施 ・企業による業界セミナーの実施 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) | | | |
| ・TOEIC 700点以上、観光英語検定試験2級、日商ビジネス英語検定試験150点以上 | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |
| その他5名の内訳は、留学3名、自己就職2名。 | | | |

| | | |
|--------------------------------|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 41人 | 1人 | 2.4% |
| (中途退学の主な理由) | | |
| ・進路変更 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) | | |
| ・担任制による状況把握と早期個人面談 ・保護者との連携 | | |

| | | | | | | | |
|----------|------|----------------------------|-------------|-------|----|----|----|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 文化・教養 | 専門課程 | 国際コミュニケーション科 コンシェルジュコース | ○ | | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |

| | | | | | | | |
|--------|------|--------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 2年 | 昼 | 1860 単位時間 | 510 単位時間 | 420 単位時間 | 330 単位時間 | 0 単位時間 | 600 単位時間 |
| | | | 単位時間 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 60人 | 23人 | 0人 | 4人 | 70人 | 74人 | | |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

(概要)

- 年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。

授業計画書（シラバス）の作成および公表について

- 1月～ 次年度の授業計画を策定
- 2月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼
 - ※講師会に於いて講師、教員への説明
 - ※授業計画書（シラバス）のテンプレート配布
 - ※授業計画書（シラバス）のガイドライン配布
- 3月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認
- 4月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明
 - 授業計画書（シラバス）の公表

成績評価の基準・方法

(概要)

- シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。

【成績評価について】

成績評価は、科目ごとに素点（0点～100点）、4段階評価（優・良・可・不可）で表しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価（優・良・可・不可）で表示している。

| 評語 | 素点 | 意味 | ポイント |
|----|----------|-----------------------------|------|
| 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 |
| 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 |
| 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 |
| 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 |

成績評価指数＝

$$\{ (4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \} \div \text{科目数}$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

- 必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。
- 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。
- 学納金の未納が無いこと。

【卒業認定に関する方針】

本校は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能、プロ意識を持った人材の育成を教育目標としており、卒業する学生は学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力を有している。

①専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得

| |
|---|
| ②グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力 ③全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心） |
| 本校のディプロマポリシーに基づき、各コースのディプロマポリシーを設定している。 |
| 学修支援等 (概要) ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。 |

| | | | |
|--|------------|-------------------|---------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 9人 (100%) | 0人 (0%) | 8人 (88.9%) | 1人 (11.1%) |
| (主な就職、業界等) ・ホテル業界、小売販売業界 接客業界 | | | |
| (就職指導内容) ・個別面談、書類添削、面接指導の実施 ・企業による業界セミナーの実施 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) ・社会人ホスピタリティ検定（基本）、リテールマーケティング（販売士）検定 | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| | | |
|--|----------------|------|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 27人 | 2人 | 7.4% |
| (中途退学の主な理由) ・進路変更 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制による状況把握と早期個人面談 ・保護者との連携 | | |

| | | | | | | | |
|----------|------|---------------------------|-------------|--------------|-------------|-----------|-------------|
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 文化・教養 | 専門課程 | 国際交流科 | ○ | | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼 | 2430 単位時間 | 180 単位時間 | 2010 単位時間 | 120 単位時間 | 0 単位時間 | 120 単位時間 |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 60人 | | 59人 | 57人 | 3人 | 71人 | 74人 | |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------|-----------------------------|------|------|---|----------|----------------|---|---|---------|-----------------------------|---|---|---------|------------------|---|----|--------|--------------|---|
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間授業予定の作成を行い、前年度末までにシラバスの作成を行う。 <p>授業計画書（シラバス）の作成および公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 1月～ 次年度の授業計画を策定 2月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 <ul style="list-style-type: none"> ※講師会に於いて講師、教員への説明 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート配布 ※授業計画書（シラバス）のガイドライン配布 3月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 4月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 <p>授業計画書（シラバス）の公表</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の基準・方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに定める「成績評価方法」に基づき評価を実施する。 <p>【成績評価について】</p> <p>成績評価は、科目ごとに素点（0点～100点）、4段階評価（優・良・可・不可）で表しており、「59点以下」および「不可」は不合格となり単位を取得することはできない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績指標としている。なお、成績証明書は4段階評価（優・良・可・不可）で表示している。</p> <table border="1" data-bbox="260 954 1329 1182"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80点～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70点～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60点～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0点～59点</td> <td>到達目標に達していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数＝</p> $\{ (4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \} \div \text{科目数}$ | 評語 | 素点 | 意味 | ポイント | 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 | 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 | 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 | 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 |
| 評語 | 素点 | 意味 | ポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 優 | 80点～100点 | 到達目標をほぼ達成している。 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 良 | 70点～79点 | 不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 可 | 60点～69点 | 到達目標の最低限は満たしている。 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不可 | 0点～59点 | 到達目標に達していない。 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 卒業・進級の認定基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価科目が無いこと。 ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること。 ・学納金の未納が無いこと。 <p>【卒業認定に関する方針】</p> <p>本校は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能、プロ意識を持った人材の育成を教育目標としており、卒業する学生は学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得 ②グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力 ③全ての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心） <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各コースのディプロマポリシーを設定している。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|--|
| 学修支援等 (概要) ・授業内テストや検定試験を実施することによる学修成果の確認。 ・個別指導の実施。 |
|--|

| | | | |
|--|------------|-------------------|--------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 23人 (100%) | 0人 (0%) | 22人 (95.7%) | 1人 (4.3%) |
| (主な就職、業界等) ・ホテル業界、航空業界、組合 | | | |
| (就職指導内容) ・個別面談、書類添削、面接指導の実施 ・企業による業界セミナーの実施 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) ・日本語能力試験 N1、N2、情報処理技能検定試験（表計算）3級、TOEIC | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| | | |
|--|----------------|-----|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 50人 | 3人 | 6% |
| (中途退学の主な理由) ・経済的理由 ・家庭事情 | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制による状況把握と早期個人面談 | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考（任意記載事項） |
|--------------|----------|-------------|-----|------------|
| 国際エアライン科 | 180,000円 | 890,000円 | 円 | |
| 観光・ホテルブライダル科 | 180,000円 | 890,000円 | 円 | |
| 国際コミュニケーション科 | 180,000円 | 890,000円 | 円 | |
| 国際交流科 | 150,000円 | 680,000円 | 円 | |
| 修学支援（任意記載事項） | | | | |

b) 学校評価

| | | |
|--|----------------------------|--------|
| 自己評価結果の公表方法 | | |
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/ | | |
| 学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) | | |
| <p>学校関係者として、専門分野に係る航空、観光等関連分野の企業実務者ならびに学生の父母等、卒業生の代表と共に、評価委員会を設置し、年に1度、学校関係者評価委員会を開催する。</p> <p>本校における学校関係者評価は、前年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書に対して外部の学校関係者から意見をいただき、新年度の学校教育に反映させることで教育活動および学校運営をより良いものに改善することを目的としている。</p> <p>・主な評価項目 (1) 教育理念・目標 (2) 教育活動 (3) 教育成果 (4) 学生支援 (5) 教育環境 (6) 学生募集と受け入れ (7) 教職員組織、学校運営・管理・財務、法令等の遵守 (8) 社会貢献・地域貢献、国際交流</p> <p>・評価委員の構成定員：11名(企業：9名、卒業生：1名、在校生の父母等：1名)</p> <p>・評価結果の活用方法、評価結果について 校長(責任者)を中心とした運営委員会等で改善方法を検討し、可能な範囲で可能な限り早期に改善を実施する。</p> | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| 矢崎総業株式会社 | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 株式会社フジドリームエアラインズ | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 株式会社センチュリーアンドカンパニー | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 株式会社 ANA Cargo | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 株式会社安心堂 | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 株式会社ドリームスカイ名古屋 | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| ANAエアポートサービス株式会社 | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 株式会社 JTB 静岡支店 | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡 | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 企業等委員 |
| 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 後援会副会長 | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 在校生父母等 |
| 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 同窓会会長 | 令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年) | 卒業生 |

| |
|--|
| 学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/ |
| 第三者による学校評価 (任意記載事項) |
| |

c) 当該学校に係る情報

| |
|--|
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/ |
|--|

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|-------------------|-------------------------|
| 学校コード (13桁) | H122310000401 |
| 学校名 (〇〇大学 等) | 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 |
| 設置者名 (学校法人〇〇学園 等) | 学校法人静岡理工科大学 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|---------------------|------|-----|-----|-----|
| 支援対象者 (家計急変による者を除く) | | 32人 | 31人 | 32人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | - | - | |
| | 第Ⅱ区分 | - | - | |
| | 第Ⅲ区分 | - | - | |
| | 第Ⅳ区分 | 0人 | 0人 | |
| 家計急変による支援対象者 (年間) | | | | 0人 |
| 合計 (年間) | | | | 32人 |
| (備考) | | | | |

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | | |
|---|---------|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下) | 0人 | 0人 | 0人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 計 | 0人 | 0人 | 0人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|----|---|----|-----|----|
| 年間 | 0人 | 前半期 | 0人 | 後半期 | 0人 |
| | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | - |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | - |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|--|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下) | 0人 | 0人 | 0人 |
| GPA等が下位4分の1 | - | 0人 | - |
| 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 計 | - | 0人 | - |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。